

第 35 回 もろこし阿房列車

宮脇俊三氏の「中国火車旅行」を読んで、上海留学時代を懐かしく思い出した。同氏の中国鉄道旅行は 1985 年からスタートするが、筆者が初めて列車旅行を体験したのはその前、上海華東師範大学に留学していた 1981 年のことだった。既に鄧小平による「中国の夜明け」は始まっていたのだが、それは最近になって中国研究者が唱えだした大雑把な時代区分であり、あのころ上海で暮らした外国人にとって、当時の中国は改革開放のカケラも見えない息苦しい国だった。そのせいか真っ先に覚えた中国語は「没有・メイヨウ (= 無い)」と「不行・ブーシン (= ダメ)」だった。

その年の冬季休暇は 12 月中旬から始まり、休講の時くらいは寒々とした上海を離れ、暖かい南の地で正月を迎えようと思立った。善は急げと幹事役の友人が張り切って大学、公安局、民航局、上海駅を走り回り、無事旅行許可証を入手、年末の早朝四人の銀行員は欣喜雀躍と空路福州 (福建省) に向かった。運よくファーストクラスが手に入ったので、それなりの大型機だろうと期待していたら、空港バスが横付けしたのはそのバスより小さいプロペラ機。ソ連製のアントノフ (An-24、36 人乗り) だと知り焦ったが、今さら引き返すわけにも行かず、ええい、ままよ！と搭乗すると、最前列だけが四人掛けソファの F 席となっている。向かい合って座るとは珍しい飛行機もあるものだと感心したのも束の間、左右どう探しても安全ベルトが見当たらない。アントノフは既に滑走路に向かってタキシングを始めており、慌てて空中小姐 (スチュワーデス) に「同志！安全带～没有！ (= ベルトがないよ～！)」と叫んでも、無愛想に「没有问题 (= 問題ないあるよ)」と一言。その内アントノフ機は轟音を発し滑走路を猛進し始めた。進行方向に向かって座る 2 人はまだ良かったが、逆向きの 2 人は顔を真っ赤にしてテーブルを掴んでいた。あとで知ったのだが、上海民航は吾々に飛行クルーが休憩するソファをファーストクラスとして売りつけたようだ。現在なら刑事訴訟法ものの事件である。やっと離陸して安定飛行に入ったと思ったら、今度は隣の非常扉から風立ちぬ、うっすらと白い煙が流れ出した。一種の半ドア状態である。慌てふためいてスチュワーデスを呼ぶと、不機嫌そうな顔をして枕を 2 つ非常ドアに挟んで向こうへ行ってしまった。げに生きた心地がしなかった。

天佑神助のおかげで何とか福州に到着し、翌日は人民バスに乗り込み、緑林の徒が出没しそうな山間の葛折の細道を約 8 時間かけて港町アモイ (廈門) に向かった。アモイは南京条約により開港し、かつて共同租界が置かれていたエキゾチックで風光明媚な街である。対岸のコロン島から遠く台湾を眺め、夜は紹興酒片手に海鮮料理を満喫して楽しい 2 日を過ごしたのだが、どうも街に活気が感じられない。毎日上海人と怒鳴りあって暮らしてきた吾が身に、こころのどかな船津の街は合わないようだ。翌日は広東省に移動しようとした時になって喧騒と混沌の魔都上海が懐かしくなった。もう一人の友人も同じこ

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

1/3

とを考えていたようで、結局四人組はアモイで分裂し、転向組の2人は列車で上海に帰ることになった。列車が定刻どおりに走れば大晦日の午後には上海に着けるはずだ。

翌日アモイ駅に飛び込んだ吾々は二手に分かれ、筆者は上海行きの軟臥席(一等寝台)を2枚確保、友人は車中20数時間の旅に備え外貨ショップで缶ビール一箱(24本)と、白酒を買い込み列車に飛び乗った。中国の一等寝台車は二段ベッドが向かい合う4人用のコンパートメントが一両8室(=32人)となっており、日本の寝台車よりは広い。運賃が幾らか忘れたが、外人料金として2倍近い値段を払っても随分安いものだと思った記憶がある。窓際の小さなテーブルには電気灯と4つの蓋つき茶碗が置いてあり、床には熱湯の入った魔法瓶が用意されてある。列車のスピードは日本のローカル線並みだが、日本より車幅が広いいためか乗り心地は悪くない。

初めて眺める江南の田園風景はきれいだった。農家の池ではアヒルやガチョウが群れ、刈り取りの終わった田んぼでは水牛がのんびりと草を食み、裸足の子供たちがそれに乗って遊んでいる。破れかけた土塀にうつすらと「打倒劉少奇 鄧小平！」などという文革時代のスローガンが残っているところもある。朝からビールを飲みながら車窓を眺めると、ものうらかな光景が広がってくる。ところが幾ら美しい景色でもこれが延々と続くとやがて飽きてくる。また汽車が駅に停まると、遠隔地からの汽車との接続の関係か、やたら停車時間が長い。ホームに下りてすれ違う列車や駅頭の八釜しい雑踏を眺めて面白いと感じるのも最初の2駅までである。仕方ないので列車に戻り再びビールを飲みだす。

そのうち途中から乗り込んできた恰幅のいい老人が、自分はいまフホト(内蒙古)にある電線工場の総経理をしているが、戦前の浜松高専の卒業生だと流暢な日本語で名乗り酒宴に加わった。同氏は日本の技術書を何冊か中国語に翻訳しており「著者の了解もなく翻訳するとは、盗人の仕業であり誠に心苦しい」と正直に告白していたのを覚えている。夜になって食堂車に案内され、総経理氏とその秘書も加わり一汁三菜の列車定食を肴に再び宴会が始まり、コンパートメントに帰っても夜明けまで楽しい酒宴は続いた。翌日上海に着いた頃にはアモイで買い求めた酒はきれいになくなっていた。上海駅で総経理氏に別れを告げ、酔歩蹒跚として宿舎に着いたのが大晦日の午後のこと、大学に残っていた留学生たちの大歓迎を受け、物好きにも息苦しい上海に舞い戻ってきた愚かな行いに対して密かに満足しつつ1982年を上海で迎えた。数年前に亡くなった友人の森口さんを偲ぶ都度、この珍道中を思い出す。(了)

平成 21 年 10 月 15 日

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

2/3



東洋証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第121号
日本証券業協会 加入
本社所在地 〒104-8678 東京都中央区八丁堀 4-7-1 03-5117-1040

ご投資にあたっての注意事項

手数料等およびリスクについて

株式の手数料等およびリスクについて

- 国内株式の売買取引には、約定代金に対して最大 1.2075% (税込み) (約定代金が 260,869 円以下の場合、3,150 円 (税込み)) の手数料をいただきます。国内株式を募集、売出し等により取得いただく場合には、購入対価のみをお支払いいただきます。

国内株式は、株価の変動により、元本の損失が生じるおそれがあります。

- 外国株式等の売買取引には、売買金額 (現地における約定代金に現地委託手数料と税金等を買いの場合には加え、売りの場合には差し引いた額) に対して最大 0.8400% (税込み) の国内取次ぎ手数料をいただきます。外国の金融商品市場等における現地手数料や税金等は、その時々々の市場状況、現地情勢等に応じて決定されますので、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。

外国株式は、株価の変動および為替相場の変動等により、元本の損失が生じるおそれがあります。

債券の手数料等およびリスクについて

- 非上場債券を募集、売出し等により取得いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。

債券は、金利水準の変動等により価格が上下し、元本の損失を生じるおそれがあります。外国債券は、金利水準の変動等により価格が上下するほか、カントリーリスク及び為替相場の変動等により元本の損失が生じるおそれがあります。また、倒産等、発行会社の財務状態の悪化により元本の損失を生じるおそれがあります。

投資信託の手数料等およびリスクについて

- 投資信託のお取引にあたっては、申込 (一部の投資信託は換金) 手数料をいただきます。投資信託の保有期間中に間接的に信託報酬をご負担いただきます。また、換金時に信託財産留保金を直接ご負担いただく場合があります。

投資信託は、個別の投資信託ごとに、ご負担いただく手数料等の費用やリスクの内容や性質が異なるため、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。

投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とするため、当該金融商品市場における取引価格の変動や為替の変動等により基準価格が変動し、元本の損失が生じるおそれがあります。

株価指数先物・株価指数オプション取引の手数料等およびリスクについて

- 株価指数先物取引には、約定代金に対し最大 0.0840% (税込み) の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。
- 株価指数オプション取引には、約定代金、または権利行使で発生する金額に対し最大 4.20% (税込み) (約定代金が 2,625 円に満たない場合は、2,625 円 (税込み)) の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。

株価指数先物・株価指数オプション取引は、対象とする株価指数の変動により、委託証拠金の額を上回る損失が生じるおそれがあります。

ご投資にあたっての留意点

取引や商品ごとに手数料等およびリスクが異なりますので、当該商品等の契約締結前交付書面、上場有価証券等書面、目論見書、等をよくお読みください。

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

3/3